

第2学年3組 国語科学習指導案

平成21年12月8日(火) 第3校時

授業者 教諭

1 単元名 かたかなで書くことば

2 単元の目標

- ・片仮名で書く言葉の種類を理解することができる。(言語)
- ・文や文章の中で、正しく片仮名を読んだり書いたりしようとする。(関・意・態)

3 単元について

1年生の時に片仮名の読み書きを学習して、ちょうど1年となる。児童は片仮名を使うことに慣れ親しんでいるが、片仮名を使用する場合のルールについては気づいている児童は少ない。この時期に片仮名はどういう時に使用するかというルールを理解させ、正しい表記の仕方を定着させるため、本単元が設定されている。

まず最初は、具体例を挙げて、片仮名で書く言葉があるということに「気づく」学習である。ここでの「気づく」は平仮名だけの文章を見て「片仮名を使っていないことがおかしい」という明確な気づきでなくてもよい。「何かが違うな」という文章に対する違和感を感じる事が大切である。次に、「知る」段階である。「どうぶつのなき声」と「いろいろなものの音」、いわゆる擬声語は音を象徴化したものであり、一般的な日本語の語彙とはなっていないので片仮名で書くことになっている。「外国の、国の名前や土地の名前、人の名前」、「外国から来たことば」は、いずれももともと外国語だったものとして、まとめることもできる。最後は、課題を与えて、探してみることになっている。応用として、「定着させる」段階である。身近な例がたくさんあるので、どんどん言葉を探させたい。

この中で、「ティ、ファ、ウィ」など、本来、日本語の音韻になかった音もあるということに触れることもあるだろう。児童から出てくれば、軽く取り上げても良いが、四年生以上の学習内容となっている。

4 児童について(男子20名 女子17名)

活発な児童が多いが、手を挙げて発表をする児童は限られてきている。しかし、周りの児童と意見を出し合った後だと、全員が手を挙げられるようになるため、ペアでの話し合いや班活動を取り入れるようにしている。

全体的に国語の学習は好きな児童が多い。本を読むことが好きな児童も多いため、片仮名を使うか使わないかを無意識に判断できている児童が多い。しかし、普段、片仮名を使い分けている児童にも時に「80メートルソウ」「ぷりんと1まい」「九九のレンシュウ」「リンゴ」等の誤った表記が見られる。おそらく、片仮名表記にきちんとしたルールがあることを知らないことが理由だと思われる。

5 指導について

2学年部会の研究テーマとして「しっかり聞き、つながり合う子の育成」に取り組んでいる。授業では、できるだけ班活動を通し、児童同士の話し合いの中で答えを見つけていくように支援していきたい。また、児童の読書量に違いがあり、語彙数が極端に多い児童と少ない児童が見られるため、班活動で協力して、分類を理解させていきたい。次時で4種類の片仮名言語を見つける活動をするために、本時ではたくさん語彙を与えて分類させたいと考えている。

片仮名で書く言葉について考えることを契機として、いろいろな言葉に触れ、言葉について考えることは、単に表記上のルールの習得ということに終わるのではなく、言葉についての児童の興味・関心を広げていくことにつながる。児童の語彙を拡充する機会としても活用していきたい。

この単元の学習にとどまらず、今後十分に定着するように日記、連絡帳などで間違った使い方をしている場合は根気強く指導していきたい。

6 指導計画（3時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価基準
1 本時	身の回りの片仮名で表す言葉を四つに分類する。	片仮名で書く四種類の言葉を理解することができる。	○				◎	片仮名で書く言葉を正しく四つに分類することができる。
2	身の回りの片仮名で表す言葉を見つけて、四つに分類する。	片仮名で書く四種類の言葉を自分で見つけることができる。	○		◎			片仮名で書く言葉を自分でたくさん見つけて、四種類に分類することができる。
3	片仮名の言葉を入れた文を作ったり、クイズをしたりする。	楽しみながら、適切に片仮名を使って文を作ることができるようになる。	◎		◎			片仮名の言葉を含んだ適切な文をたくさん作ることができる。

7 本時のめあて

片仮名で書く言葉の4種類を知り、分類することができる。

8 準備物

平仮名の手紙（黒板掲示用）、片仮名の言葉の紙（黒板掲示用）、片仮名の書いてある短冊、ワークシート

9 本時の学習過程

学習活動	支援（・）と評価（☆）
<p>○平仮名だけで書かれた手紙を見て、片仮名で書く方が良い言葉を発表していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「びざ」→「ピザ」 「あめりか」→「アメリカ」などを発表していく。 なぜ片仮名で書くのかわかる時は、その理由もつけて言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">片仮名で書く言葉を4つに分けよう</div> <p>○4つに色分けされた言葉の分類を話し合う。</p> <p>『どうぶつのなき声・いろいろなものの音・外国の国や人の名前・外国から来たことば』</p> <p>○班で協力して片仮名が書いてある短冊を4枚の発表ボードに分けて貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類が正しいか、学級全体で話し合う。 <p>○ワークシートに4種類の片仮名言葉を探して書いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書けた言葉を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 片仮名で書くべき言葉を全て平仮名で書くことにより、片仮名で書かないといけな言葉があることに気づかせる。 発表した片仮名の言葉カードを4つに色分けして、分類のヒントにする。 児童の発表をまとめて、分類のタイトルを決める。 みんなが自分の考えを出せるように短冊を班内で分け合うように指示する。 <p>☆班員全員が協力して片仮名を分類しているか。 (観察・発表・・・関・意・態)</p> <p>☆4つの分類を正しく理解し、片仮名で書く言葉を見つけてきているか。 (観察・ワークシート・・・言語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を探せない児童には、教科書の中から探すよう指示する。 全ての種類を最低でも5つは書けるように支援していく。

10 授業の観点

片仮名言葉の4つの分類を理解するために、短冊を分ける作業は効果的であったか。